

途上国カツオ・マグロ漁業管理能力強化支援事業 [拡充] 【41(31)百万円】

対策のポイント

途上国の漁業管理能力向上のための支援を通じて、カツオ・マグロ類の資源管理の推進、持続的生産及び我が国への安定的な供給の確保を目指します。

<背景/課題>

- ・カツオ・マグロ類は、海域毎に設置された地域漁業管理機関において管理され、資源の保存及び合理的利用が図られています。特に中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)及び大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)が管轄する海域は、我が国へのカツオ・マグロ類の供給にとって非常に重要な海域です。
- ・しかしながら、これらの機関に加盟している多くの途上国は、複雑化、高度化する管理措置への対応が困難となっており、各機関が実施している保存管理措置の円滑かつ確実な実施の観点から、各国の特殊性にも配慮した途上国の漁業管理能力の向上のための支援が必要です。

政策目標

- 地域漁業管理機関を通じてカツオ・マグロ類資源の適切な保存管理を実現します
- WCPFCでは毎年6つ、ICCATでは毎年8つの保存管理措置を採択します(現在WCPFCは46、ICCATは139の保存管理措置が存在)

<主な内容>

1. 中西部太平洋カツオ・マグロ資源管理能力強化支援事業(WCPFC) 26(15)百万円

WCPFCで合意された保存管理措置の着実な実施に加え、近年議論が活発化している管理戦略への対応や管理体制の構築するため、人材育成や制度の改善等を行うことにより、適切な資源管理が行われるよう支援を行い、我が国カツオ・マグロ類漁業者の主要漁場である中西部太平洋において、持続可能な漁業の継続を図ります。

(抛出先：中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)
事業実施期間：平成25年度～平成34年度)

2. 大西洋沿岸途上国まぐろ漁業管理支援事業(ICCAT) 15(16)百万円

漁獲証明書の電子化をマグロ類に導入するトレーサビリティシステムの確立に向けた、漁業管理能力の更なる強化、途上国での先進的事例をケーススタディとした現地会議等を行います。また、ICCATにおいて、東・西大西洋クロマグロの資源構造・動向の解明に向けた調査・分析を強化することが決定されたことから、新たな生物標本のDNA解析、標識放流調査及び耳石採取調査といった、大西洋クロマグロ資源の調査及び研究に不可欠な支援協力をを行い、大西洋クロマグロの資源構造及び動向の解明を図ります。

(抛出先：大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)
事業実施期間：平成26年度～平成30年度)

(お問い合わせ先：
大臣官房海外投資・協力グループ (03-3502-5913)
水産庁国際課 (03-3502-8460))

途上国カツオ・マグロ漁業管理能力強化支援事業

事業概要・目的

○事業概要

かつお・まぐろ類資源の長期的な保存及び持続可能な利用を図るため、我が国へのかつお・まぐろ類の供給において非常に重要な機関である中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)や大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)に対し、加盟している途上国の漁業管理能力や調査能力の向上のために支援。

○WCPFCにおける新たな課題

近年、管理戦略の策定に向けた議論が活発化。管理戦略の下では、利用可能なデータから管理措置が自動的に決定されるため、データの正確性・信頼性の確保が非常に重要。また、管理目標を始めとして、策定に際しては、全てのメンバーの利害が絡み合う中、我が国の権益が損なわれないよう、慎重な対応が必要。

⇒最大のデータ提供元である太平洋島嶼国の更なる漁業管理能力の向上及び管理戦略や我が国の立場に対する理解醸成が急務

事業イメージ・具体例

○事業イメージ

・先進的漁業管理制度実施能力向上支援事業



・新管理手法導入準備支援事業



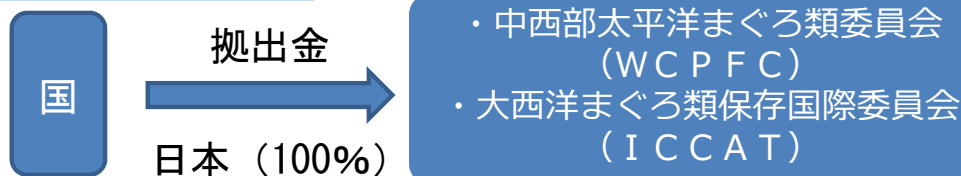
○これまでの成果

- ・WCPFC 我が国と太平洋島嶼国の共同提案が基となり、現行の熱帯まぐろ類の保存管理措置が策定。
- ・ICCAT アフリカ諸国からの我が国の主張に対する支持や熱帯性まぐろ類の保存管理措置見直しにおけるより精度の高い漁獲データの提供。

期待される効果

- 沿岸途上国における保存管理措置の適切な実施
⇒カツオ・マグロ類資源の維持・回復
- カツオ・マグロ類資源の持続的利用と安定供給の確保
⇒我が国漁業者の安定的な漁場確保
- WCPFCやICCATにおける我が国の立場に対する理解醸成
⇒マルチの交渉の場における仲間作り

資金の流れ



※ICCATは平成16年、WCPFCは平成18年から支援事業を実施。